悠久の時がくれた贈り物。自然が描き出す神秘と幻想の世界へ

都の天然記念物に指定され、関東でも随一のスケールを誇る日原鍾乳洞。
年中摂氏11℃と夏涼しく冬暖かい洞内を、整備の行き届いた
通路に沿って辿りながら、一歩一歩、驚異の自然美が彩る
未知の世界を探検しましょう。

白衣観音
仏像のように並び立つ石筍のなかでも、ひときわ大きい一体。白衣観音の御出座を思わせる神々しさが、その名の由来です。

金剛杖
およそ2m50cmもの細長い石筍。金剛杖の名にふさわしい、見事な成長ぶりです。

水琴窟（すいきんくつ）
水を張った瓶に滴り落ちる水音が奏でる透明な音世界。幽玄の響きに耳を傾けましょう

弘法大師学問所
弘法大師が修行に使ったともいわれる空洞。信仰の名残りを感じさせる空間です。

縁結び観音
石積みに囲まれるように鎮座します観音様。ご利益を求めて熱心にお参りする人も。

あるがままの自然美が広がる新洞

昭和37年、奇跡的に手つかずのまま発見された新洞では特に石筍と石柱の発達が著しく、乱立する鍾乳石が織りなす雄大な光景は、日原鍾乳洞の美しさをさらに高めています。新洞の入口は、発見した東海大学学生探検隊にちなみ、当時の東海大学学長・松前重義先生の名前から「松前口」と名付けられました。

人目には見えにくい場所にも、綺麗な鍾乳石がつららのように伸びています。

ガマ岩

ひとくちメモ-1

鍾乳洞の中には水が流れていた。

鍾乳洞は、地下を流れる水が石灰岩の侵食を繰り返すことで発達します。洞壁に何段も残る水平のくぼみはノッチと呼ばれ、ここに水流があったことの証しなのです。

ひとくちメモ-2

1センチのびるのに、なんと70～130年。

わずか1センチのびるために、天井から下がる鍾乳石は約70年、床に固まり積もる石筍は約130年もの時間を要するとされています。みごとに成長した石柱に彩られた洞内の眺めは、数十万年以上の時が積み重なって生まれたもの。神秘的な風景のひとつひとつに、人間には推し量ることのできない歴史が刻み込まれているのです。

ひとくちメモ-3

その昔、信仰の対象だった鍾乳洞。

かつて「一石山御岩屋」や「一石山大権現」と呼ばれた日原鍾乳洞は、鎌倉時代からは修験道の聖地になるなど、自然崇拝の信仰をあつめる特別な場所でした。鍾乳洞の洞穴そのものを堂宇とし、鍾乳石や石筍、石柱を諸仏にみたてた当時の名残りは、洞内の各所に付けられた宗教的な呼び名に今も生きています。

日原鍾乳洞 ケービング体験

未知なる新洞を求めて洞窟を探検する新しいタイプのアウトドア・スポーツ、ケービング。そのケービングさながらに、専門家のガイドのもとで日原鍾乳洞の神秘をより深く感じられる自然体験が、これ。一般には公開されていない洞穴の深部へ、ヘルメットとヘッドライトを身に付けてわけ入り、まるで宝探しのようなロマンを味わえます。

●ケービング体験に関する詳しいお問い合わせは「ねねんぼう　0428-82-0788」まで。